

「おおっ！」「燃えてる！」 暗くした理科室に、生徒たちの驚きの声が響きました。

1年生の理科で行ったのは「赤ワインの蒸留」実験です。赤ワインを加熱し、出てきた蒸気を3本の試験管に分けて集めました。それぞれの液体に火を近づけると、1本目の試験管の液体からは勢いよく炎が上がり、生徒たちはその様子に釘付けでした。

教科書の文字だけで覚えるのではなく、「なぜ1本目はよく燃えて、3本目は燃えないの？」
「出てきた液体のにおいはどう違うか？」 五感を使って確かめることで、物質の性質（沸点の違い）への理解が深まりました。

実験の楽しさの後は、しっかりと「考察」の時間。静まり返った教室で、今日の発見を自分の言葉でまとめます。実験器具の洗浄から片付けまで、班のみんなで協力して行う姿にも、中学生らしい頼もしさを感じた1時間でした。

